キャンパス NOW

阪大広報誌の特集号「適塾から世界適塾へ」

「世界トップ10に」志込めて

緒方洪庵の創設した「適塾」を源流とする大阪大学が、学内外向けの広報誌を再編集した特集号「適塾から世界適塾へ」＝写真＝を出版した。世界へ飛躍するステップとして、今年を「世界適塾 元年」と位置づける阪大。特集号では、阪大が行っている世界的な研究などを紹介し、国際的な活躍を印象づけている。【嶋谷泰典】

「適塾から世界適塾へ」は学外向けに発行している「大阪大学ニューズレター」の直近1年分と学内誌「阪大NOW」をもとに編集。巻頭特集では、適塾で行った建築家の安藤忠雄さんと平野俊夫総長との特別対談を掲載。安藤さんは大学の専門教育を受けられなかったものの、貨客船で海外へ飛び立って必死で勉強し、世界的な建築家となるまでの経験を語っている。小説家・開高健さんの言葉「全力で走れ。それしか君の生きる道はない」が人生の大きな励みになったとし、学生たちへ「大学生には人間力を磨くための十分な時間があります。学生時代に本気で勉強などと闘わなかった人間は、生涯闘うことないと思います」と熱いメッセージを送っている。

安藤忠雄さん対談、グローバル教育紹介記事など

続く第1部では、「世界をリードする研究」と題して、国際共同研究促進プログラムなどを紹介。「グローバル化が進む教育」と題した第2部では、海外留学して世界にチャレンジする「阪大なでしこ」や、ベンチャービジネスに取り組む海外留学生らが元気さをアピール。第3部「社会との交流」では、国内外で活躍するOB・OGインタビュー、企業訪問などを取り上げ、全編通して阪大の豊かな国際性や活躍ぶりがうかがえる内容となっている。また、中間子論で日本人初のノーベル賞を受賞した湯川秀樹博士が、阪大在職時代にその論文を完成させていたエピソードなども披露している。

平野総長は「阪大は2031年の創立100周年に、世界トップ10のグローバル・ユニバーシティー『世界適塾』になることを目指している。学問を通じた多様性の創造によって、心豊かな人類社会の発展に貢献していきたい」と語っている。

A4判、154ページ。非売品。問い合わせは広報課（06・6879・7017）まで。

トップインタビュー

追手門学院大学　坂井東洋男学長

関西沸かせる人材を

追手門学院大学（大阪府茨木市）は、創立50周年を迎える再来年を〝第2の開学〟と位置づけ、さまざまな改革に取り組んでいる。大きな柱となるのが、来年4月の地域創造学部の開設だ。「地に足。世界にまなざし。」がスローガン。坂井東洋男（とよお）学長に狙いなどを聞いた。【中川博史】

＝宮武祐希撮影

――新しい学部を作ったきっかけは？

◆8年間、京都産業大学の学長をしていて、追手門の学長になったのが2年3カ月前のことです。再来年、創立50年を迎えるわけですが、大学としてはまだ若い。でも、それなりの時間は経過している。にもかかわらず、あまり改革に力を入れている印象がなかったんです。特に直近の10年ほどは動きがなかった。改革がいい結果を生むかと言えば、必ずしも保証はありません。しかし、組織は絶えず動いていないと停滞してしまう。そこで、時代の流れの中で、教学の組織を変えようと考えたんです。

――どんな学部なんでしょう。

◆「地域経済・事業創造」「観光・まちづくり」「都市文化・文化創造」の3コースがあります。簡単に言えば、大阪、神戸、京都を中心に関西の地域を掘り起こし、発展させていく人材を育てるのが目的です。何とか、地域に活力を注入したい。

政府が「地方創生」を掲げていますが、民間でないと地域の創造はできないと思います。例えば観光一つとっても、京都や奈良だけでなく、飛騨高山あたりにも外国人がいっぱい来ている。地元で知恵を出し合うからです。

――具体的には何を勉強するのでしょう。

◆どうすれば文化を生み出せるか、情報を発信できるかを学びます。土地を知る尺度として、私はよくお菓子を例に挙げます。おいしいお菓子のあるところには、いい文化があります。城下町をイメージしてもらえればいいと思います。要は「売り物」や「特長」を見つけるんです。

大阪では、中小企業の承継が大きな問題になっています。後継者がいなくて、仕事を引き継いでいくことができない。ではどうするのか。そういった方法論も学びます。ベンチャー企業も視野に入れています。京都では、京セラやローム、堀場製作所など、比較的短い期間で世界的規模になった会社があります。大いに参考になります。

――入試制度も改革するそうですが。

◆学力試験一本やりではだめだということは、みんな分かっているんですが、偏差値は、思った以上に若い人たちを毒しています。何のために大学に入るのかをきちんと考えてもらうため、アサーティブ入試という制度を取り入れました。面接をしたうえで、設定したテーマについてグループで討議させる仕組みです。文部科学省の2014年度「大学教育再生加速プログラム」に採択されました。

物事を多角的に考え、自分なりの結果を出すのが大事なんです。「偏差値に左右されない」という意味では、実は教学組織に「笑い」を組み入れることができないか、と考えています。

――笑い、ですか？

◆笑いは文化そのものです。人を笑わせるのには高度な能力が必要です。その術を知る人を育てたい。社会に出ると、下手な知識よりも、よっぽど役に立ちます。各員教授に、お笑いコンビのロザンを招いたのもその一環です。夢は知と笑いの融合した「笑学部」の設置ですが、まずは笑い学研究所みたいなものから始められないかなあ、と考えています。

追手門学院大学　経済、経営、社会、心理、国際教養の5学部で構成。学校法人追手門学院が運営母体。幼稚園・こども園、小中高校を併せ持つ総合学園で、法人創立80周年記念事業として大学を設置した。起源は、主に軍人子弟の教育のため、大阪城三の丸の近くに作られた大阪偕行社付属小学校にさかのぼる。入試課（072・641・9644）。http://www.otemon.ac.jp/

学園情報

★**大阪商業大学大学院特別教育研究コース「IRマネジメント」の学生募集**　来年4月に開設。大阪市北区のグランフロント大阪にある谷岡学園梅田サテライトオフィス「CURIO-CITY」を中心に授業をする。一定の英語力があり、3年以上の社会人経験者が対象。IR（カジノを含む統合型リゾート）事業に必要なマネジメント能力を養う。募集人数は若干名。選考方法など詳細は教務課（06・6781・8816）。

★**理化学研究所―東京大―大阪大ジョイントセミナー「創発物質科学と未来開拓」**　16日（木）、17日（金）、大阪市北区中之島4の大阪大中之島センター。環境調和型で持続可能な社会の実現を目指す新しい物質科学の潮流をテーマに、理研の創発物性科学研究センターと放射光科学総合研究センター、東大、阪大から物質科学分野の研究リーダー21人が参加し、講演やセッションを行う。また、文部科学省の「博士課程教育リーディングプログラム」に選ばれている東大の「統合物質科学リーダー養成プログラム」と阪大の「インタラクティブ物質科学・カデットプログラム」を履修している大学院生もポスター発表し、研究成果を競う。16日は11時、17日は9時開始。問い合わせはカデットプログラム事務局（06・6850・6403）。

★**大阪国際大学教養講座**　31日（金）△第1回▽＝ビジネス学部経営デザイン学科の石井康夫教授「実践的マーケティング―日常生活の中から考える―」▽11月21日（金）△第2回▽＝現代社会学部法律政策学科の古賀敬太教授「EUはどこに行くのか―ヨーロッパ統合の将来―」▽12月19日（金）△第3回▽＝ビジネス学部経営デザイン学科の石井康夫教授「企業統治（コーポレート・ガバナンス）と危機管理―企業の社会的責任（CSR）を再考する―」▽2015年1月9日（金）△第4回▽＝ビジネス学部経営デザイン学科の小泉大輔講師「日本の企業組織におけるダイバーシティ・マネジメント―両立支援施策と女性活躍推進施策―」▽2月13日（金）△第5回▽＝国際関係研究所研究員の宮崎哲也教授「Web3・0時代のネットビジネス」。いずれも11時～12時半。大阪府枚方市杉3の同大学枚方キャンパス2―202教室。無料。住所、氏名、連絡先、参加希望の講座名を開催日1週間前までに電話かファクスで申し込む。同大国際関係研究所事務室（06・6902・0791、ファクス06・6902・2744）。

★**龍谷大〝食の循環〟トークセッションをユーストリームで配信**　来年4月に農学部を開設予定の龍谷大学は「食の循環」を共通テーマとしたトークイベントを計6回開催。第1回分からユーストリームに配信しており、視聴できる。内容は、ヤンマーの小林直樹常務取締役農機事業本部長らを招いた第5回「地球規模の問題を解決する『新しい農業』のクリエイト」、黄桜の若井芳則専務を招いた第6回「京都産酒米から学ぶ『米』と『食の循環』～日本の伝統産業と農業の未来～」などとなっている。同大学長室（広報＝075・645・7882）。

40th Anniversary
2014 JABA National Amateur Baseball Championship

第40回記念 社会人野球日本選手権大会

●主催：（公財）日本野球連盟・毎日新聞社　●共催：大阪市
●後援：スポーツニッポン新聞社／NHK大阪放送局／大阪シティドーム／共同通信社

会場：京セラドーム大阪
開催日程　2014. 11/1（土）▶11/11（火）
※NPBおよびプロ野球オリックス球団との協議により一部日程を変更することがあります。
入場料（税込）▶（当日）特別自由席券1,000円／特別自由席 中・高生券500円／小学生以下 無料
お問い合わせ先▶日本野球連盟 TEL：03-3213-6776
毎日新聞大阪本社 総合事業局 事業部 TEL：06-6346-8371
前売特別自由席券800円 発売中!!
JABAオンラインチケット（日本野球連盟HP）にて　クリック!!　日本野球連盟　検索

スーパーグローバル大学等事業
経済社会の発展を牽引するグローバル人材育成支援　2014年度西日本第1ブロック共同シンポジウム
大学が育成するグローバル人材とは
Cultivating Global Leaders: the Contribution of University Education
日時　11/15（土）
12:40～17:20（11:30 受付開始）
※終了後、情報交換会を開催します。
会場　神戸大学百年記念館 六甲ホール
（神戸市灘区六甲台町1-1）
アクセス　阪神「御影」駅、JR「六甲道」駅、阪急「六甲」駅から神戸市バス 36系統「神大文理農学部前」下車
参加無料
お申し込み方法（定員300名）
神戸大学グローバル教育部ホームページ
申込フォームよりお申し込みください。
www.iphe.kobe-u.ac.jp/global
申込締切日：10/31（金）
※定員に達し次第早期に終了する場合があります。

プログラム
12:40～12:45　「開会挨拶」　藤田 誠一（神戸大学 理事・副学長）
12:45～13:45 第一部　「基調講演」～社会が求めるグローバル人材とは～
①天羽 稔　（経済同友会教育改革委員長・デュポン株式会社名誉会長）
②高岡 浩三（ネスレ日本株式会社代表取締役社長）
13:50～14:50 第二部　「個別発表」～特色ある取組内容と到達目標の設定・評価方法～
タイプA 全学推進型
グローバル・キャラクターを育む
― 多様な学生資質と大規模私立大学の取り組み ―
○林 以知郎（同志社大学 国際連携推進機構 国際化推進室長）
タイプB 特色型（文系）
"全員留学"の次にめざすもの
― 現地主義教育の展開と日本理解・発信力養成の試み ―
○砂山 幸雄（愛知大学 副学長）
タイプB 特色型（理系）
京都産業大学グローバル・サイエンス・コース
― グローバル社会で活躍する理系産業人の育成に向けて ―
○中村 暢宏（京都産業大学 総合生命科学部 教授）
14:50～15:30　各取組大学の学生によるポスターセッション
15:30～17:00 第三部　「パネルディスカッション」～世界に飛躍するグローバルリーダー～
〔コーディネーター〕
○阪野 智一（神戸大学 学長補佐）
〔パネリスト〕
○天羽 稔　○高岡 浩三
○村上 優　（関西学院大学 社会学部 4年）
○奥本 光軌（福井大学 大学院工学研究科博士前期課程 1年）
○清水 滝介（鳥取大学 工学部 4年）
○山下 彩　（愛知県立大学 外国語学部 4年）
○坂野 加奈（立命館大学 情報理工学部 3年）
17:00～17:20　「総括・閉会挨拶」　○阪野 智一（神戸大学 学長補佐）
17:30～19:00　情報交換会
会場：神戸大学瀧川記念学術交流会館
会費：1,000円（税込）
スーパーグローバル大学等事業　経済社会の発展を牽引するグローバル人材育成支援　西日本第1ブロック採択9大学
神戸大学　同志社大学　関西学院大学　福井大学　鳥取大学　愛知県立大学　愛知大学　京都産業大学　立命館大学
■お問い合わせ／神戸大学大学教育推進機構 グローバル教育部　TEL：078―803―5256　E-Mail：iphe-ghrd@edu.kobe-u.ac.jp　URL：www.iphe.kobe-u.ac.jp/global